

学 校 法 人 新 庄 学 園

# 新 庄 東 高 等 学 校

平成30年度

第3学年

## 教 科 目 学 習 計 画

～ 校 訓 ～

“自らの手で人生を開拓しよう”

それは努力によって

そして方法を考えて

すべて敬虔な態度で

## ○普通科 E コース

### 1. コース目標

難関大学の合格を目指し、大学受験に対応できる学力を養う。  
探求活動を通して、幅広い知識を得て、教養を深める

### 2. 学習目標（第3学年）

第一志望の大学に現役合格する。

### 3. 3年間の授業の流れ

#### 【第1学年】

- ・国語、数学、英語の授業が毎日あります。授業を大切にし、基礎学力を身につけてください。
- ・授業→演習→復習のサイクルを確立してください。  
国語、数学、英語の家庭学習は継続して行うこと。  
放課後の時間を利用し、その日の復習を行うこと。  
放課後は教科の先生を積極的に利用すること。
- ・年間4回の全国模擬試験を実施します。学力水準と伸長を客観的に判断し、弱点教科に役立てます。
- ・将来の進路の方向性を決定します。

#### 【第2学年】

- ・国語、数学、英語を中心に、進路希望に合わせて社会、理科の選択授業があります。
- ・1年次の基礎学力の上に、応用力を養い、大学入試センター試験に対応できる学力を身につけます。1年次以上に、家庭学習の量と質が大切になります。
- ・年間4回の全国模擬試験を実施します。2学期以降は社会、理科も試験科目になります。また、志望校の決定の参考とします。
- ・大学研究を行い、志望校と受験科目を決定します。
- ・語学研修を行います。

#### 【第3学年】

- ・進路希望に合わせた選択授業が多くなります。
- ・大学入試センター試験はもちろんですが、個別学力試験に対応できる力を身につけることを基本に、演習中心の授業を行います。
- ・毎月、全国模擬試験を受験し、実践力を身につけます。出願校の決定の参考とします。

科目名	コース	学年	単位数
国語表現	E	3	2

○内容・授業の進め方

- ・小論文の特徴と書き方の手順を理解させます
- ・いろいろな種類の小論文を作成させます

○ 学習計画

月		月	
4	小論文とは何か	9	資料の読み取り型小論文の演習
5	・問題意識と思考力を育てる ・論理的に表現する力を身につける ・文章構成について理解する		・大きな差異に注目し、何故そのなるのか考察し論じる
6	資料の作成方法を学ぶ	10	演習 ・難関国公立大の小論文に取り組む
7	レポート発表	11	演習 ・難関私立大の小論文に取り組む
8	資料課題型小論文の演習 ・課題文の主張やキーワードを読み取る ・問題提起をつくる	12	演習
		1	・志望校の過去問に取り組む
備考			

○評価

- ・授業・課題への取り組み

科目名	コース	学年	単位数
現代文 B	E	3	3

○内容・授業の進め方

- ・センター試験、大学入試において高得点を取れる学力を身につけます。
- ・優れた文章を読むことで鑑賞能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てます。

○ 学習計画

月		月	
4	随筆・随想の演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随想を読み味わい、筆者独自のものの見方、感じ方をつかむ。</li> <li>・ 個性的な表現を通し、その文章の魅力を探る。</li> </ul>	9	評論の演習（2） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者の考えを読み取り、段落ごとに構成・要点をとらえる</li> <li>・ 応用演習                      ・ 模試対策</li> </ul>
5	小説の演習（1） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の心情や情景理解を中心に、小説の構成を学び、テーマを考える。</li> </ul>	10	評論の演習（3） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者の考えを読み取り段落ごとに構成・要点をとらえる</li> <li>・ 応用演習                      ・ 模試対策</li> </ul>
6	評論の演習（1） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段落ごとに構成をとらえ、筆者の主張を読み取る</li> <li>・ 要旨文を書くことで、内容理解が出来たかを確認する</li> <li>・ 評論の読解方法を学ぶ</li> </ul>	11	演習
7	小説の演習（2） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の心情を読み取る</li> <li>・ 主題について考える</li> </ul>	12	1 （夏以降はセンター対策演習を中心に進める）
8	応用演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模試対策</li> <li>・ センター対策演習</li> </ul>		
備考			

○評価

- ・ 定期試験
- ・ 授業・課題への取り組み

科目名	コース	学年	単位数
古典 B	E	3	2

○内容・授業の進め方

- ・センター試験、大学入試において高得点を取れる学力を身につけます。
- ・優れた文章を読むことで鑑賞能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てます。

○ 学習計画

月		月	
4	説話・随筆 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説話を読み味わい、筆者独自のものの見方、感じ方をつかむ。</li> <li>・ 個性的な表現を通し、その文章の魅力を探る。</li> </ul>	9	古代の史話（漢文） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の言動の要点・心情の変化を読み取る力を養う</li> </ul> 応用演習                      ・ 模試対策
5	物語 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の心情や情景理解を中心に、物語の構成を学び、テーマを考える。</li> </ul>	10	思想（漢文） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本人の考え方儒家の思想との相違点を理解する</li> </ul>
6	韻文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本固有の文学や芸術を創り育て長く継承してきた人々の真摯な思いを理解し、伝統的文化を尊重する気持ちを養う</li> <li>・ 古人のものの見方、感じ方を参考にして、これまで学習してきた古典作品をもう一度味わい直す契機とする</li> </ul>	11	応用演習
7	日記文学 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古代の女流日記文学が、男性の書く日々の日記とは大きく異なることを理解する</li> </ul>	12	センター対策
8	応用演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模試対策</li> <li>・ センター対策演習</li> </ul>	1	
備考			

○評価

- ・ 定期試験
- ・ 授業・課題への取り組み

科目名	コース	学年	単位数
日本史B	E	3	3

○内容・授業の進め方

- ・近世から現代までの歴史の流れを知り、日本人としての自国への理解を深める。
- ・センター試験で90点以上、各模試で偏差値70以上を取れるような学力をつける。

○学習計画

月		月	
4	近世① 幕藩体制の成立、幕藩社会の構造 幕政の安定、経済の発展、元禄文化 <全統マーク模試>	8	<全統マーク模試> <全統記述模試> 近代③ 昭和恐慌、軍部の台頭、第二次世界大戦
5	近世② 幕政の改革、宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道、化政文化 <全統記述模試>	9	現代 占領政策、冷戦の開始と講和、55年体制 高度経済成長時代、昭和から平成へ <ベネッセ駿台マーク模試>
6	近代① 開国・幕末の日本、明治維新 自由民権運動、立憲国家の成立 <進研マーク模試>	10	《2学期中間テスト》 センター対策演習 <全統記述模試> <ベネッセ駿台記述模試>
7	《1学期末テスト》 近代② 日清戦争、日露戦争、明治の産業・文化 第一次世界大戦、ワシントン体制 大正時代の文化 <進研記述模試>	11	<ベネッセ駿台マーク模試> センター・二次・私大対策演習
		12	<センタープレ模試>
		1	《センター試験》 センター・二次・私大対策演習
備考 ・授業内容の復習として週末課題を課す ・2週に1度の割合で小テストを行う			

○評価

- ① 定期テスト・模試の成績
- ② 課題の提出状況・小テストの成績
- ③ 授業態度（予習の取り組み・発言など）を総合的に評価する

科 目 名	コース	学 年	単位数
政治経済	E	3	3

○内容・授業の進め方

1年次の現代社会で学んだ公民の内容を土台に、政治分野と経済分野をより深く理解していく。授業の中で、多様な立場からものごとを捉える力を養いながら、主体的な生き方を目指していく。教材としては、模試の問題を扱っていく。

○ 学習計画

月		月	
4	政治分野 民主政治 人権 日本国憲法 など	8	↓
5	経済分野 資本主義経済 金融政策 財政政策 など	9	
6	国際経済 国際分業 自由貿易 為替 など	10	
7	センター演習 ↓	11	
		12	
		1	
	備考		

○評価

授業への積極性 多様な視点からの論理的思考 を中心に評価。  
定期テストや模擬試験も評価の対象とする。

科目名	コース	学 年	単位数
世界史B	E	3	3

○内容・授業の進め方

- ・事前に提示されるテーマについて、生徒が学習した内容を授業で発表する。
- ・予習した事項の理解や考察を、問答法やディスカッションを通して深める授業と位置づける。

○ 学習計画

月		月	
4	<b>19世紀のアジアの動揺</b> オスマン帝国、西アジア、インド帝国、 5 清朝、日本 ○欧米勢力の干渉・植民地化の動きに対する アジア諸国の動きを多角的に捉え、理解 し、説明することができる	10	<b>冷戦と第三世界の登場</b> 米ソ対立、中ソ対立、国際連合、急速な経 済成長、南北問題 11 ○各国の現在までの背景を理解し、現代社会を 読み解き、考察することができる  既習内容のまとめ
6	<b>帝国主義と列強の国内政治</b> 列強感の帝国主義対立、世界分割、アジ アの民族運動、辛亥革命	12	
7	○20世紀の民族運動の形成を準備がどの ように進んでいったかを理解し、説明する ことができる	1	
8	<b>2つの世界大戦</b>		
9	第一次世界大戦、ロシア革命、ソ連の成立、 ヴェルサイユ体制、ワシントン体制、世界 恐慌、ファシズムの台頭、第二次世界大戦 ○複雑な対立関係を理解し、20世紀の世界 を多角的に捉えることができる		
備考 ・教科書、用語集、資料集を準備して、必ず予習して臨むこと			

○評価

定期テスト（上記の○の到達度を確認する）の成績・課題の提出状況・授業態度など総合的に評価する




科目名	コース	学年	単位数
地理 B	E	3	3

○内容・授業の進め方

- ・教科書を中心とし、地図帳や GIS(地理情報システム)を活用しながら知識理解を深めていく。
- ・地球に関しての関心を高め、地理的考察によって世界を見る力を養う。
- ・考察から生まれた知識を、言語によってアウトプットする力を養う。

○学習計画

月		月		
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人口、村落・都市</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市・居住問題</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生活文化、民族・宗教</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の衣食住</li> </ul>	10	センター演習	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民族と宗教</li> <li>・民族・領土問題</li> </ul>	11		
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現代世界の諸地域</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア</li> <li>・東南アジア</li> <li>・南アジア</li> </ul>	12		
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジア・中央アジア</li> <li>・アフリカ</li> </ul>	1		
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ</li> <li>・ロシア</li> </ul>			
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンглоアメリカ、ラテンアメリカ</li> <li>・オセアニア</li> </ul>			
備考				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を活用し、より鮮明な資料を提供していく。</li> </ul>				

○評価

- ① 定期テスト・模試の成績
- ② 授業態度（発言・積極的な挑戦など）を総合的に評価する

科目名	コース	学年	単位数
数学発展Ⅱ	E	3	5

○ 内容・授業の進め方

- ・ 文系の生徒を対象とし、センター試験に対応できる力を養う。
- ・ 生徒自身の目標設定に合わせて、学習計画を作成し、実行していく。  
下記の内容に関しては参考資料。
- ・ 11月からテスト形式での演習とする。

○ 学習計画

月		月	
4	《数学Ⅰ》 式の計算 方程式・不等式 2次関数	8	三角関数
5	2次不等式 三角比と図形 《数学A》 集合 場合の数 組合せ・二項定理 確率と期待値	9	指数関数 対数関数 導関数と接線 関数の極大・極小、最大・最小 微分法の応用 不定積分、定積分 定積分で表された関数 面積
6	命題と証明 平面図形 《数学Ⅱ》 多項式の除法、恒等式 複素数と二次方程式 因数定理、高次方程式	10	【中間テスト】 《数学B》 平面ベクトル 空間ベクトル 等差数列、等比数列 種々の数列
7	【期末テスト】 点、直線、円 曲線と直線 軌跡と領域	11	漸化式
		12	センター試験演習
		1	(数学ⅠA／数学ⅡB)
備考 定期テスト以外に確認テストをおこなう。			

○ 評価

- ・ 定期試験・課題テスト等の結果を重視する。

科 目 名	コース	学 年	単位数
理科発展Ⅱ（生基）	E	3	3 / 2

○内容・授業の進め方

- (1) 1年次に学習した生物基礎の復習を中心に授業を進める。
- (2) 理科の基本的な事項を確認し、生物基礎の内容をより発展させた内容を学ぶ。また大学受験に対応した学力を身につける。センター試験の目標得点85%以上とする。

○学習計画

月		月	
4	◆生物の特徴	1	◆生物の多様性と分布
5	・生物の多様性と共通性		・多様な植生
6	・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸	2	・植生の移り変わり ・気候とバイオーム
7	◆遺伝子とそのはたらき		◆生態系とその保全
8	・遺伝情報とDNA	3	・生態系
9	・DNAの構造と遺伝情報		・物質循環とエネルギーの流れ
10	・遺伝情報とタンパク質の合成 ・遺伝情報の分配と細胞の分化		・生態系のバランスと保全
11	◆生物の体内環境		
	・体液としての体内環境		
12	・腎臓と肝臓による調節 ・自律神経とホルモンによる調節 ・免疫		
備考			

○評価

1. 意欲や態度・・・アクティブラーニングに取り組む姿勢が積極的である。  
課題に取り組み、期日まで提出している。
2. 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストで得点できる。
3. 思考力、判断力、表現力・・・授業中の発言内容が科学的である。  
課題を論理的に解くことができる。  
自分の考えを的確に伝えることができる。  
以上の点を総合的に評価します。

科 目 名	コース	学 年	単位数
理科発展Ⅱ（化基）	E	3	3 / 2

○内容・授業の進め方

- (1) 1年次に学習した化学基礎の復習を中心に授業を進める。
- (2) 理科の基本的な事項を確認し、化学基礎の内容をより発展させた内容を学ぶ。また大学受験に対応した学力を身につける。

○学習計画

月		月	
4	演習 1. 物質の構成	12	センター演習
5	2. 物質の構成粒子	1	
6	3. 粒子の結合	2	
7	4. 物質と化学反応式	3	
8	5. 酸と塩基の反応		
9	6. 酸化還元反応		
10			
11			
備考			

○評価

1. 意欲や態度・・・応用問題に対し、自分の考えを積極的に発言することができる。
2. 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストで得点できる。
3. 思考力判断力・・・問題を解いた過程を論理的に説明することができる。

科目名	コース	学年	単位数
体育	E	3	3

### ○内容・授業の進め方

生徒同士が協力し、個人やチームの課題を解決出来るようにする。また、スポーツの特性を理解し、ルールを学んだうえで練習し、試合まで行う。

### ○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・整列</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボール</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟、補強運動</li> <li>・スポーツテスト</li> <li>・柔道 受け身 固め技</li> <li>・陸上競技</li> <li>短距離走</li> <li>砲丸投げ</li> </ul>	9	基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>走り幅跳び</li> <li>走り高跳び</li> <li>(基礎練習、記録測定)</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋外）</li> <li>サッカー、ソフトテニス</li> <li>ソフトボール、グラウンドゴルフ</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋外）</li> <li>サッカー、ソフトテニス</li> <li>ソフトボール、グラウンドゴルフ</li> <li>サッカー（男子） ・ソフトテニス(女子)</li> <li>パスの基本                      ラリー</li> <li>トラップの基本                  サーブ</li> <li>シュートの基本                  ボレー</li> <li>↓</li> </ul>	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール</li> <li>基礎練習（パス、ドリブル、シュート）</li> <li>ゲーム</li> <li>・選択種目（屋内）</li> </ul>
		12	フットサル      バスケットボール
		1	バドミントン      卓球
備考			
体調不良等で見学する場合であっても、運動着に確実に着替えて授業に参加すること。			

### ○評価

1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。
2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。
3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。
4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。
5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。

科 目 名	コース	学 年	単位数
コミュニケーション 英語Ⅲ	E	3	4

○内容・授業の進め方

センター試験、大学二次試験を見据えて、文章読解力を養う。その上で、音読をさせて文章が頭に残るように工夫する。

○学習計画

月		月	
4	Unit 1 How do you make a good first impression?	9	Unit5 Why do people take risks?
5	Unit2 What makes food taste good?	10	Unit6 Why do people help each other?
6	Unit3 How has technology affected our lives?	1	Unit7 How can a small amount of money make a big difference?
7-8	Unit4 Does advertising help or harm us?	2-3	Unit8 What does it take to be successful?
Q Skills 3 (Oxford 出版社) を使用する。			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

科目名	コース	学 年	単位数
英語表現Ⅱ	E	3	3

○内容・授業の進め方

センター試験、大学二次試験を見据えた文法指導を行う。その上で、書かせるだけではなく、音読を用いて1度やった文法事項に関しては1回で覚えられるような工夫を行う。

○学習計画

月		月	
4	英文和訳演習 英作文演習	9	大学二次試験対策
5	英文和訳演習 英作文演習	10	大学二次試験対策
		11	大学二次試験対策 センター試験対策
6	英文和訳演習 英作文演習	12	センター試験対策
		1	センター試験対 大学二次試験対策
7	英文和訳演習 英作文演習	2	大学二次試験対策
大学赤本 Write to the Point など使用			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

科目名	コース	学年	単位数
情報の科学	E	3	2

○内容・授業の進め方

- ・情報の役割や表現方法について理解を深める。
- ・コンピュータを使ったコミュニケーション技法や、その注意点・問題点を理解する。
- ・情報社会に参加する上で必要な知識と技術、態度を身につける。
- ・実習・実践を通して学習内容の定着を図る。

○学習計画

月		月	
4	序章 情報とメディア 第1章 情報とは 第2章 メディアとは	9	第3編 問題解決とコンピュータ 第1章 問題解決
5	第3章 情報のデジタル化 第4章 インターネットの活用	10	第2章 問題解決と処理手順の自動化 第3章 データベース
6	第1編 コンピュータとデジタル情報 第1章 コンピュータの仕組み 第2章 情報のデジタル表現	11	第4編 情報社会と情報モラル 第1章 情報システムと人間
7	第2編 情報通信ネットワーク 第1章 コミュニケーション手段の発達	12	第2章 情報社会の光と影 第3章 情報セキュリティの確保
8	第2章 インターネットのしくみ		第4章 情報社会における法と責任
備考			

○評価

- ・定期試験（60%）＋実技試験（20%）＋授業態度・提出物（20%）とする
  - 定期試験（60%）→ 得点より評価・・・思考・判断（20%）＋知識・理解（40%）
  - 実技試験（20%）→ 制作物の完成度・創意工夫より評価
    - ・・・関心・意欲・態度（5%）＋技能・表現（10%）＋思考・判断（5%）
  - 授業態度・提出物（20%）→ 発言・提出物・出欠状況・その他より評価
    - ・・・関心・意欲・態度（10%）＋技能・表現（10%）
- ・ルーブリック評価を導入する



# ○普通科 Aコース

## 1. コース目標

「未来を生き抜く力とグローバルリーダーとしての資質を養う」

課外活動と学力の向上の両立に励み、国際社会で活躍できる人材をめざす。

## 2. 学習目標（第3学年）

第一志望校に合格する。

模試の偏差値58を突破する。

国際社会へ関心を持ち、活躍するために必要な資質・能力を身につける。

## 3. 3年間の授業の流れ

### （第1学年）

- ①中学校までの既習事項を応用する力を身につけ、高校での学習をスタートさせる。
- ②大学受験に必要な基礎学力をつけるために、国語、数学、英語の家庭学習（平日最低2時間）を定着させる。
- ③「授業→復習→課題（応用問題）」のサイクルを確立する。
- ④模擬試験で個々の学力水準と学力の伸長を客観的に判断し、計画的な学習を進める。
- ⑤総合学習でコース行事を通して、進路の方向性を探り、2年次の科目選択に備える。
- ⑥放課後学習や土曜講習で、知識の幅を広げる。

### （第2学年）

- ①進路希望に合わせて社会と理科に選択授業があり、自分の選択に責任を持つ。
- ②1年次の基礎学力の上に、大学入試センター試験に対応できる学力をつけることを目標に学習する。（平日最低2時間半）
- ③模擬試験で全国のライバルを意識し、志望校を決定していく。
- ④学部等について調べ、志望校と受験科目、入試方法を決定する。
- ⑤放課後学習や土曜講習で、面接・小論文等の入試対策を行う。

### （第3学年）

- ①模擬試験を中心に志望校合格に向けた学習を計画していく。
- ②大学入試センター試験の8割を目標に、演習を重ね学力向上に努める。
- ③入試スケジュールを作成し、保護者との協力体制を強化する。

## 4. その他

受験回数が増える模擬試験を中心に志望校合格に向けた学習計画を立てましょう。早い段階で受験校を選択し、入試スケジュールを立てる必要があります。常に「受験勉強」を中心した生活を送りましょう。自分の夢や目標を見失うことなく学校生活を送り、充実した高校生活を完結させてください。

科目名	コース	学年	単位数
現代文 B	A	3	3

○内容・授業の進め方

- ・センター試験、大学入試において高得点を取れる学力を身につけます。
- ・優れた文章を読むことで鑑賞能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てます。

○学習計画

月		月	
4	随筆・随想の演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・随想を読み味わい、筆者独自のものの見方、感じ方をつかむ。</li> <li>・個性的な表現を通し、その文章の魅力を探る。</li> </ul>	9	評論の演習（2） <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを読み取り、段落ごとに構成・要点をとらえる</li> <li>・応用演習                      ・模試対策</li> </ul>
5	小説の演習（1） <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情や情景理解を中心に、小説の構成を学び、テーマを考える。</li> </ul>	10	評論の演習（3） <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを読み取り段落ごとに構成・要点をとらえる</li> <li>・応用演習                      ・模試対策</li> </ul>
6	評論の演習（1） <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落ごとに構成をとらえ、筆者の主張を読み取る</li> <li>・要旨文を書くことで、内容理解が出来たかを確認する</li> <li>・評論の読解方法を学ぶ</li> </ul>	11	演習
7	小説の演習（2） <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情を読み取る</li> <li>・主題について考える</li> </ul>	12	
8	応用演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・模試対策</li> <li>・センター対策演習</li> </ul>	1	（夏以降はセンター対策演習を中心に進める）
備考			

○評価

- ・定期試験
- ・授業・課題への取り組み

科目名	コース	学年	単位数
古典 B	A	3	2

○内容・授業の進め方

- ・センター試験、大学入試において高得点を取れる学力を身につける。
- ・優れた文章を読むことで鑑賞能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てる。

○学習計画

月		月	
4	○オリエンテーション (予習の仕方、課題について 等)	4	○漢文
5	○古文	5	①返読文字の復習
6	①動詞の復習	6	②再読文字の復習
7	②形容詞・形容動詞の復習	7	③否定形の復習
8	③用言の復習	8	④使役形の復習
9	④助動詞の復習	9	⑤疑問形の復習
10	⑤助詞	10	⑥反語形の復習
11	⑥敬語	11	⑦受身形
12	⑦和歌の修辞	12	⑧比較形
1	⑧演習		⑨詠嘆形
	○演習 ・受験に向けた演習問題を繰り返し行う。 ・センター試験対策 ・志望大学の赤本 ・国公立大学の二次試験対策	1	⑩選択形
			⑪願望形
備考			
必ず予習をして、授業に臨むこと。 古文：テキスト・古語辞典・古文単語帳・体系古典文法 漢文：テキスト・新明説漢文			

○評価

- ・授業・課題への取り組み
- ・定期試験

科目名	コース	学年	単位数
日本史B	A	3	3

○内容・授業の進め方

- ・近世から現代までの歴史の流れを知り、日本人としての自国への理解を深める。
- ・センター試験で80点以上、各模試で偏差値65以上を取れるような学力をつける。

○学習計画

月		月	
4	近世① 幕藩体制の成立、幕藩社会の構造 幕政の安定、経済の発展、元禄文化 <全統マーク模試>	8	<全統マーク模試> <全統記述模試> 近代③ 昭和恐慌、軍部の台頭、第二次世界大戦
5	近世② 幕政の改革、宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道、化政文化 <全統記述模試>	9	現代 占領政策、冷戦の開始と講和、55年体制 高度経済成長時代、昭和から平成へ <ベネッセ駿台マーク模試>
6	近代① 開国・幕末の日本、明治維新 自由民権運動、立憲国家の成立 <進研マーク模試>	10	≪2学期中間テスト≫ センター対策演習 <全統記述模試> <ベネッセ駿台記述模試>
7	≪1学期末テスト≫ 近代② 日清戦争、日露戦争、明治の産業・文化 第一次世界大戦、ワシントン体制 大正時代の文化 <進研記述模試>	11	<ベネッセ駿台マーク模試> センター・二次・私大対策演習
		12	<センタープレ模試>
		1	≪センター試験≫ センター・二次・私大対策演習
備考 ・授業内容の復習として週末課題を課す ・2週に1度の割合で小テストを行う			

○評価

- ① 定期テスト・模試の成績
- ② 課題の提出状況・小テストの成績
- ③ 授業態度（予習の取り組み・発言など）を総合的に評価する

科目名	コース	学年	単位数
地理 B	A	3	3

○内容・授業の進め方

- ・教科書を中心とし、地図帳や GIS(地理情報システム)を活用しながら知識理解を深めていく。
- ・地球に関する関心を高め、地理的考察によって世界を見る力を養う。
- ・センター試験で、80 点以上とれる、知識定着を目指す。

○学習計画

月		月		
4	人口、村落・都市 ・都市・居住問題 生活文化、民族・宗教 ・世界の衣食住	10	センター演習 ↓	
5	・民族と宗教 ・民族・領土問題	11		
6	現代世界の諸地域 ・東アジア ・東南アジア ・南アジア	12		
7	・西アジア・中央アジア ・アフリカ	1		
8	・ヨーロッパ ・ロシア			
9	・アンглоアメリカ、ラテンアメリカ ・オセアニア			
備考				
・ICT を活用し、より鮮明な資料を提供していく。				

○評価

- ① 定期テスト・模試の成績
- ② 授業態度（発言・積極的な挑戦など）を総合的に評価する

科目名	コース	学年	単位数
現代社会	A	3	2

○内容・授業の進め方

- ・現代社会への関心を高め、問題解決への意欲に繋げていく主体的な取り組みを中心とする。
- ・センター試験対策としての、過去問演習や選択文を読み解く力を育成する授業を行う。
- ・授業では、教員が学習内容の要点のみを提示し、そこから各自問題演習を通して視点を広げていく。

○ 学習計画

月		月	
4	<b>国際経済</b> 外国為替	9	<b>政治分野総復習</b> センター対策、私大対策
5	国際収支と貿易 国際経済の中の日本 ○国際経済の仕組みを理解し、現在のニュースを読み解いていくことができる	10	
6	<b>国際政治</b> 国際連合と安全保障 冷戦とその後の世界 軍縮への取り組み	11	<b>経済分野総復習</b> センター対策、私大対策
7	地域統合の進展 国際紛争・地域紛争 ○前後の国際社会について理解を深め、現在の様相の背景を説明することができる	12	
8	現代社会の問題解決に向けた自身の考えをレポートで作成	1	
備考 プリント、教科書、ワークを使用する。			

○評価

- ・定期テスト（上記の○の到達度を確認）や授業に取り組む姿勢（態度・発言）、提出物を総合して評価
- ・現代社会への関心、問題解決への意欲を重視する

科目名	コース	学年	単位数
数学Ⅲ	A	3	5

○ 内容・授業の進め方

- ・理系進学者用の内容であり、個別学力試験に対応できる力を養う。
- ・単元ごとに問題集を提出。
- ・11月頃からセンター試験対策を行い、数学ⅠⅡABの総復習を行う。
- ・個別学力検査で数学を要するものに対しては、自由登校後に個別に指導する。

○学習計画

月		月	
4	式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 関数	10	2次試験対策 《中間テスト》
5	極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	11	センター試験対策
6	微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	12	《期末テスト》
7	《期末テスト》 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	1	《センター試験》 2次試験対策
8	積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分	2	国公立2次試験
9	第3節 積分法の応用 複素数平面	3	
備考 定期テスト以外に確認テストをおこなう。			

○評価

- ・定期試験・課題テスト等の結果を最重要視する。
- ・単元ごとの確認テスト等も評価対象とする。

科目名	コース	学年	単位数
数学発展Ⅱ	A	3	5

○ 内容・授業の進め方

- ・ 文系の生徒を対象とし、センター試験に対応できる力を養う。
- ・ 生徒自身の目標設定に合わせて、学習計画を作成し、実行していく。  
下記の内容に関しては参考資料。
- ・ 11月からテスト形式での演習とする。

○ 学習計画

月		月	
4	《数学Ⅰ》 式の計算 方程式・不等式 2次関数	8	三角関数
5	2次不等式 三角比と図形 《数学A》 集合 場合の数 組合せ・二項定理 確率と期待値	9	指数関数 対数関数 導関数と接線 関数の極大・極小、最大・最小 微分法的应用 不定積分、定積分 定積分で表された関数 面積
6	命題と証明 平面図形 《数学Ⅱ》 多項式の除法、恒等式 複素数と二次方程式 因数定理、高次方程式	10	【中間テスト】 《数学B》 平面ベクトル 空間ベクトル 等差数列、等比数列 種々の数列
7	【期末テスト】 点、直線、円 曲線と直線 軌跡と領域	11	漸化式
		12	センター試験演習
		1	(数学ⅠA／数学ⅡB)
備考 定期テスト以外に確認テストをおこなう。			

○ 評価

- ・ 定期試験・課題テスト等の結果を最重要視する。基本的に提出物等による加点（平常点）はおこなわない。



科目名	コース	学年	単位数
物理	A	3	3

○内容・授業の進め方

自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、事物・現象の基本的な原理や法則を学習する。

アクティブラーニング型の授業により、問題演習を多く取り入れ、大学入試で高得点を取れる学力を身につける。

○ 学習計画

月		月	
4	第1章 電場 静電気力、電場、電位、物質と電場 コンデンサー	8	第1章 電子と光
5	第2章 電流 オームの法則、直流回路、半導体	9	電子、光の粒子性、X線、粒子の波動性
6	第3章 電流と磁場 磁場、電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力	10	第2章原子と原子核 原子の構造とエネルギー準位 原子核、放射線とその性質 核反応と核エネルギー、素粒子
7	第4章 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則、交流の発生 自己誘導と相互誘導、交流回路	11	演習（二次試験）
		12	演習（センター試験）
		1	
備考			

○評価

1. 授業への参加姿勢（発言、質問、教え合い）
2. 課題の提出状況（問題集、テスト再提出）
3. 課題テスト、定期テスト結果

科目名	コース	学年	単位数
化学	A	3	3

○内容・授業の進め方

化学的な事物・現象の基本的な原理や法則を理解し、自然に対する関心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てることを目標とする。

アクティブラーニング型の問題演習により、大学入試センター試験で高得点がとれる学力を身につける。

○学習計画

月		月	
4	第3編 無機化学 第2章 金属元素(I) 第3章 金属元素(II) 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の特徴と分類 1.1.有機化合物の特徴 1.2.有機化合物の分類	8	第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物 1.1.天然有機化合物の種類 1.2.単糖類・二糖類 1.3.アミノ酸 第2章 天然高分子化合物 2.1.多糖類 2.2.タンパク質・核酸
5	第2章 脂肪族炭化水素 2.1.飽和炭化水素 2.2.不飽和炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 3.1.アルコールとエーテル 3.2.アルデヒドとケトン	9	
6	3.3.脂肪族カルボン酸と酸無水物 第4章 芳香族化合物 4.1.芳香族炭化水素 4.2.フェノール類 4.3.芳香族カルボン酸	10	第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 1.1.高分子化合物の構造と性質 第2章 合成高分子化合物 2.1.合成繊維 2.2.合成樹脂 2.3.高分子化合物と人間生活 2.4.天然ゴムと合成ゴム
7	4.4.芳香族アミンとアゾ化合物 4.5.有機化合物の分離	11	
		12	化学の復習 物質の状態と平衡 物質の変化と平衡 無機物質 有機化合物 高分子化合物
		1	
備考			

○評価

1. 授業への参加姿勢（発言、小問解答、聴くこと）
2. 課題の提出状況（問題集、テスト再提出）
3. 課題テスト、定期テスト結果

科目名	コース	学年	単位数
生物	A	3	3

### ○内容・授業の進め方

身の回りの生物や生物現象の本質に関わるような基本的な事項を深く学んでいきます。観察や実験等の探求活動を通して科学を経験的に学び、さらに生物の個々の事象を関連させ、総合的にとらえる科学的な思考力が身につくように学びます。上級学校への進学にも対応できるように、いろいろな問題演習に取り組みます。

### ○学習計画

月		月	
4	6章 1 植物の反応 2 成長の調節 3 花芽形成と発芽の調節		9章 生物の系統 1 生物の分類と系統 2 原核生物 3 原生生物 4 植物 5 動物 6 菌類
5	4編 生態と環境 7章 生物群集と生態系 1 個体群 2 個体群内の個体間の関係 3 異種個体群の関係 4 生物群集 5 生態系における物質生産 6 生態系と生物多様性	7 8 9	センター演習
6	5編 生物の進化と系統 8章 生命の起源と進化 1 生命の起源 2 生物の変遷 3 進化のしくみ	10 11 12 1	
備考 大学入試に対応できる学力をつける。			

### ○評価

1. 意欲や態度・・・板書事項やポイントをノートにまとめている。
2. 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストで得点できる。
3. 思考力判断力・・・授業中の発言内容が科学的である。  
課題を論理的に解くことができる。

科目名	コース	学年	単位数
理科発展Ⅲ（化学基礎）	A	3	3 / 2

○内容・授業の進め方

1. 化学基礎の内容の復習を中心に行う。
2. 化学結合と物質の性質、物質の成り立ちについてイメージし基本的概念や法則の理解を深める。
3. アクティブラーニングにより、基礎的知識の確認から応用問題まで幅広く演習を行い、苦手分野の補強や得意分野のさらなる向上を目指す。

○学習計画

月		月	
4	化学基礎総復習・演習 1. 物質の構成	10	総合演習 1、模試の問題を用いて演習 2、センター試験の過去問を用いて演習
		11	
5	2. 物質の構成粒子	12	
		1	
6	3. 粒子の結合		
7	4. 物質量と化学反応式		
8	5. 酸と塩基の反応		
9	6. 酸化還元反応		
備考 大学入試に対応する学力を身につける。			

○評価

1. 意欲や態度・・・問題に対し積極的に取り組むことができる。
2. 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストで得点できる。
3. 思考力判断力・・・問題を論理的に解くことができる。

科 目 名	コース	学 年	単位数
理科発展Ⅲ(生物基礎)	A	3	3 / 2

○内容・授業の進め方

アクティブラーニング型の授業により、チーム力・論理力な思考力・判断力を養成します。内容は、身の回りの生物や生物現象の本質に関わるような基本的な事項を深く学んでいきます。観察や探求活動を重視し、生物を経験的に学び、さらに生物の個々の事象を関連させていきます。上級学校への進学にも対応できる学力の養成にも取り組めます。

○ 学習計画

月		月		
4	第1編 生物と遺伝子	11	センター演習	
5	①生物の特徴			
6	②遺伝子とそのはたらき	12		
7	第2編 生物の体内環境の維持 生物の体内環境とその維持			
8		1		
9	第3編 生物の多様性と生態系			
10	①植生の多様性と分布			
	②生態系とその保全			
備考	大学入試に対応できる学力をつける。			

○評価

1. 意欲や態度・・・アクティブラーニングに取り組む姿勢が積極的である。  
課題に取り組み、期日まで提出している。
2. 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストで得点できる。
3. 思考力判断力・・・課題を論理的に解くことができる。

科目名	コース	学年	単位数
体育	A	3	3

### ○内容・授業の進め方

生徒同士が協力し、個人やチームの課題を解決出来るようにする。また、スポーツの特性を理解し、ルールを学んだうえで練習し、試合まで行う。

### ○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・整列</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボール</li> </ul>
		9	基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟、補強運動</li> <li>・スポーツテスト</li> <li>・柔道 受け身 固め技</li> <li>・陸上競技</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋外）</li> </ul> サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グラウンドゴルフ
6	短距離走 砲丸投げ 走り幅跳び 走り高跳び (基礎練習、記録測定)	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール</li> </ul> 基礎練習（パス、ドリブル、シュート） ゲーム
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋外）</li> </ul> サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グラウンドゴルフ サッカー（男子） ・ソフトテニス(女子) パスの基本                      ラリー トラップの基本                  サーブ シュートの基本                  ボレー ↓	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋内）</li> </ul> フットサル      バスケットボール
		1	バドミントン      卓球
備考 体調不良等で見学する場合であっても、運動着に確実に着替えて授業に参加すること。			

### ○評価

1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。
2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。
3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。
4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。
5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。

科目名	コース	学年	単位数
コミュニケーション 英語Ⅲ	A	3	3

○内容・授業の進め方

センター試験、大学二次試験を見据えて、文章読解力を養う。その上で、音読をさせて文章が頭に残るように工夫する。

○学習計画

月		月	
4	ヒビスピ it is 構文	9	大学二次試験対策
5	ヒビスピ it is 構文 比較 仮定法	10	大学二次試験対策
		11	大学二次試験対策 センター試験対策
6	ヒビスピ 仮定法 so that / too to 構文	12	センター試験対策
7	ヒビスピ 知覚 / 使役動詞 分詞	1	センター試験対策 大学二次試験対策
		2	大学二次試験対策
ヒビスピ（株式会社アルク）、各大学赤本などを使用			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。（発表、態度）
- ・提出物が出されているか。（ノート、プリント）
- ・授業での学習が理解できているか。（定期テスト）

科目名	コース	学年	単位数
英語表現Ⅱ	A	3	2

○内容・授業の進め方

センター試験、大学二次試験を見据えて、文章読解力を養う。その上で、音読をさせて文章が頭に残るように工夫する。

○学習計画

月		月	
4	ヒビスピ° it is 構文	9	大学二次試験対策
5	ヒビスピ° it is 構文 比較 仮定法	10	大学二次試験対策
		11	大学二次試験対策 センター試験対策
6	ヒビスピ° 仮定法 so that / too to 構文	12	センター試験対策
7	ヒビスピ° 知覚 / 使役動詞 分詞	1	センター試験対策 大学二次試験対策
		2	大学二次試験対策
ヒビスピ (株式会社アルク)、各大学赤本などを使用			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)



科目名	コース	学年	単位数
情報の科学	A	3	2

○内容・授業の進め方

- ・情報の役割や表現方法について理解を深める。
- ・コンピュータを使ったコミュニケーション技法や、その注意点・問題点を理解する。
- ・情報社会に参加する上で必要な知識と技術、態度を身につける。
- ・実習・実践を通して学習内容の定着を図る。

○学習計画

月		月	
4	序章 情報とメディア 第1章 情報とは 第2章 メディアとは	9	第3編 問題解決とコンピュータ 第1章 問題解決
5	第3章 情報のデジタル化 第4章 インターネットの活用	10	第2章 問題解決と処理手順の自動化 第3章 データベース
6	第1編 コンピュータとデジタル情報 第1章 コンピュータの仕組み 第2章 情報のデジタル表現	11	第4編 情報社会と情報モラル 第1章 情報システムと人間
7	第2編 情報通信ネットワーク 第1章 コミュニケーション手段の発達	12	第2章 情報社会の光と影 第3章 情報セキュリティの確保
8	第2章 インターネットのしくみ		第4章 情報社会における法と責任
備考			

○評価

- ・定期試験（60%）＋実技試験（20%）＋授業態度・提出物（20%）とする
  - 定期試験（60%）→ 得点より評価・・・思考・判断（20%）＋知識・理解（40%）
  - 実技試験（20%）→ 制作物の完成度・創意工夫より評価
    - ・・・関心・意欲・態度（5%）＋技能・表現（10%）＋思考・判断（5%）
  - 授業態度・提出物（20%）→ 発言・提出物・出欠状況・その他より評価
    - ・・・関心・意欲・態度（10%）＋技能・表現（10%）
- ・ルーブリック評価を導入する

## ○普通科 S コース

### 1. コース目標

幅広い進路に対応できる学力を身に付ける  
社会に通用する知識を学ぶ  
パソコンの知識と技術を身につける。

### 2. 学習目標（第3学年）

進路希望に即した勉強を行い、希望進路を決定する。

### 3. 3年間の授業の流れ

#### 【第1学年】

授業を通し基本的な学力を身につけます。  
企業見学を行います。  
パソコンに関しての基礎的な技術を学びます。また1回目の MOS 検定（Excel）があります。

#### 【第2学年】

検定2回（PowerPoint Word）を行います。  
インターンシップを1回行い、社会的ルールを学びます。またインターンシップを通して自分の将来の進路を考えます。

#### 【第3学年】

進路目標に合わせて、コース別に授業を行います。進学コース、就職コースに分かれて自分の進路目標を達成します。管内就職希望者はインターンシップがあります。

### 4. その他

科目名	コース	学年	単位数
国語表現	S	3	3

○ 内容・授業の進め方

- ・ 感じたことや考えたことを的確にまとめ、自らの言葉で表現する力を高めます。
- ・ 理解し表現する基本的能力を高め、言語生活の向上を図ります。
- ・ 伝達能力を高め、鑑賞能力を養い、社会人としての資質を高めます。
- ・ 感想の共有や批評を通じて、日本文化遺産に対する理解を深めます。

○ 学習計画

月		月	
4	◎文の書き方（表現方法を知る）。 ○である・だ（常体）と、です・ます（敬体） ・ 文の基本をつかむ。	8	○文章の構成2。
5	◎語彙を増やす ○一般常識漢字の習得 ・ 漢字を身に着け、活用する。	9	・ 序論本論結論を知る。 ・ 序論本論結論の、段落毎の内容を学ぶ。 ・ 序論本論結論の、構成を理解する。
6	○文章の構成。 ・ 起承転結を知る。	10	・ 序論本論結論の、解りやすい文章構成を理解し、書く。 ○事柄を正確に伝える。
7	・ 起承転結の、段落毎の内容を学ぶ。 ・ 起承転結の、構成を理解する。 ・ 起承転結の、解りやすい文章構成を理解し、書く。	11	・ 言葉を使って伝えることに対する理解を深める。 ◎分析力の育成（広く深い表現活動）
		12	○文章を読みとり、分析力を高める。 ○分析結果を解りやすく表現する。 ・ 分析結果のメモノート作成。
		1	・ 分析結果に自分の意見を添えて表現。
備考			

○ 評価

- ・ 定期試験
- ・ 日常の取り組み
- ・ 漢字検定
- ・ 単元ごとの漢字小テスト

科目名	コース	学年	単位数
現代文B	S	3	2

### ○内容・授業の進め方

- ・伝え合う力を確かなものにするため、理解と表現学習を共に行います。
- ・自ら学び自ら考える意欲を高め、生きる力を育みます。
- ・日本の言葉の文化・伝統を受け継ぎ、心豊かな生活を創造します。
- ・ものの見方・考え方・感じ方に触れ、総合的にとらえる感性を高めます。
- ・国語の知識を深め関心を高め、国際社会に生きる国語力を獲得します。

### ○学習計画

月		月	
4	○随想 I 「カフェの開店準備」 ・筆者独特のものの見方・感じ方をつかむ。	9	○小説 I 「カンガルー日和」 ・情景や心理描写を的確に読み取る。 ・登場人物の考え方を読み取る。
5	○表現 I スピーチ【まとめる力・話す力】 ・テーマに対してグループで話し合い、相互理解を深める。 ・クラスで発表し、チームワークと批評する力を鍛える。 ○表現 II 自己表現【深く考える力・書く力】 ・テーマに対して自分の考えや意見を持ち、自由に書く。	10	・小説の登場人物に自分を重ねながら、読む楽しみを味わう。 ○表現 IV 感想文【読む力・書く力】 ・本文を読み込む前後の考え方・感じ方の変化を体験する。 ・クラスで発表し、意見を交換する
6	○評論 I 「最初のペンギン」 ・論理展開と論の筋をおさえる。 ・文章の構成について考え、理解する。	11	
7	・段落事の要点をつかみ、内容をつかむ。 ・筆者の主張・考えをおさえる。 ○表現 III 作文【考える力・書く力】	12	○詩 I 「永訣の朝」 ・繰り返し朗読し作品世界の理解を深め、詩人たちの個性に触れる。 ・作者の他作品に触れ、その背景も併せて鑑賞する。
8	・テーマに対して、自分の考えや意見を自由に書く。	1	○表現 V 正しい敬語【話す力・コミュニケーション力】
備考			

### ○評価

- ・定期試験
- ・日常の取り組み
- ・単元ごとの漢字・語句小テスト

科目名	コース	学年	単位数
就職総合	S	3	2

○内容・授業の進め方

就職試験に対応できるような力、基礎学力の向上を目指します。また、進路学習の時間として、外部講師からの指導も行います。

○学習計画

月		月	
4	筆記試験対策 志望動機作成	9	面接練習 筆記試験対策 作文試験対策 履歴書の書き方
5	筆記試験対策 志望動機作成 クレペリン対策	10	面接練習 筆記試験対策 作文試験対策
6	筆記試験対策 面接練習 作文対策	11	面接練習 筆記試験対策 作文試験対策
7	面接練習 筆記試験対策 作文試験対策 履歴書の書き方	12	面接練習 筆記試験対策 作文試験対策
8	面接練習 筆記試験対策 作文試験対策 履歴書の書き方	1	面接練習 筆記試験対策 作文試験対策
備考			

○評価

- ①授業態度中の取り組み
- ②筆記テスト
- ③提出物

科目名	コース	学年	単位数
進学総合	S	3	2

○内容・授業の進め方

推薦入試に対応できるような力、基礎学力の向上を目指します。また、進路学習の時間として、外部講師からの指導も行います。

○学習計画

月		月	
4	新聞記事要約 模擬面接 小論文対策	9	進路ガイダンス 新聞記事要約 模擬面接 小論文対策
5	進路別外部模試 進路ガイダンス 新聞記事要約 模擬面接 小論文対策	10	新聞記事要約 模擬面接 小論文対策
6	進路ガイダンス 新聞記事要約 模擬面接 小論文対策	11	新聞記事要約 模擬面接 小論文対策
7	進路ガイダンス 新聞記事要約 模擬面接 小論文対策	12	新聞記事要約 模擬面接 小論文対策
8	進路ガイダンス 新聞記事要約 模擬面接 小論文対策	1	
備考			

○評価

- ①授業中の取り組み（積極性）
- ②小テスト、定期テストの結果
- ③提出物

科目名	コース	学年	単位数
世界史 A	S	3	2

○内容・授業の進め方

- ・現代社会の仕組みを理解する上で必要な歴史的背景や文化についての知識を身につける。
- ・世界的な視野で地球人としての認識を養う。
- ・重要な歴史的イベントや出来事を具体的に理解し、基礎知識の定着を図り、大学入試対策をする。

○学習計画

月		月	
4	ユーラシアの諸文明 アジア、ヨーロッパの文化・文明	11	現代世界のあゆみ 帝国主義、第一次世界大戦、太平洋戦争
5	○基礎的な用語や歴史的背景や文化につ	12	○世界の歴史的背景を理解し、世界への日本
6	いて知識を身に着けているか		のかかわり方も考えることができる
7	一体化に向かう世界と日本 ルネサンス、大航海時代、ヨーロッパの展	1	第二次世界大戦後の世界
8	開 ○歴史的な背景について理解し、多角的な	2	国際連合、冷戦 ○歴史的な背景を踏まえつつ、今日の世界の
9	ヨーロッパ・アメリカの諸改革と世界の変動	3	国の繋がり方について理解する
10	革命、世界の変動 ○世界の繋がりを意識して、各国どのよう		
	に変わっていったのかを理解することができる		
備考			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、プリントファイルを準備して授業に臨むこと。</li> <li>・長期休み課題としてレポートを課す。</li> <li>・授業の内容の復習として課題を課す。</li> </ul>			

○評価

- ・授業態度、提出物、定期テスト、課題で評価
- ・定期テストの結果・小テストの結果

科目名	コース	学年	単位数
日本史A	S	3	2

○内容・授業の進め方

- ・中学校で学んだ歴史をより深く学習する。
- ・明治時代以降を中心とする日本の成り立ちを国際的な視点を踏まえて学習する。現代の日本人はどのような人々であり、日本はどのように出来上がってきたのかということを手自ら考え、それをふまえた上で国際社会を生きていける力をつける。

○ 学習計画

月		月	
4	江戸時代以前の歴史	10	条約改正と東アジアの情勢 日清・日露戦争
5	国際関係の変化と幕藩体制の動揺 国際情勢の変化とペリー来航	11	第一次世界大戦 大正デモクラシー 軍部の台頭
6	開国と国内秩序の混乱 明治新政府の成立	12	日中戦争 太平洋戦争
7	国際関係と対外政策	1	戦後の日本
8			
9	自由民権運動と立憲体制の成立		
備考			

○評価

- ・学習態度
- ・定期試験
- ・課題・ノート提出など総合的に評価



科目名	コース	学年	単位数
数学Ⅱ	S	3	4

### ○ 内容・授業の進め方

数学ⅠAで学んだ事が、全ての単元で活用されます。特に、2次関数の性質について理解を深めることが、三角関数以降の単元で重要になります。授業と並行して、数学ⅠAの復習に取り組みながら、授業を進めていく予定です。

また、進路希望に応じた受験対策や、校外模試を意識した演習問題も随時行いますので、与えられた課題は確実に取り組みましょう。

### ○学習計画

月		月	
4	複素数と方程式 ・ 複素数、解と係数の関係	8	三角関数
5	・ 因数定理、高次方程式	9	・ 三角関数の性質とグラフ、その応用 ・ 加法定理とその応用 ・ 三角関数の合成
6	図形と方程式 ・ 点と直線		指数関数
		11	・ 指数の拡張、指数関数
			対数関数
7	・ 円 ・ 軌跡と領域		・ 対数とその性質、対数関数、常用対数
		12	微分法
			・ 微分係数
		1	・ 導関数の応用
			積分法
			・ 不定積分
			定積分と面積
備考 状況によって、進度変更有り			

### ○評価

数学ⅠAの復習テスト、単元毎の確認テスト（必要に応じて）、定期テスト、課題テストの結果を重視する。基本的に提出物での加点は行わない（減点はあり得る）。

科目名	コース	学年	単位数
生物	S	3	4

### ○内容・授業の進め方

生命の発達や細胞のはたらきについて自ら疑問をもち、その問いに対して探求し、科学的な表現を用いて人に伝えることができる力を養う。授業は調べ学習を基本とし、単元の終わりには必ず発表を行う。授業や定期考査は教科書を主に用いる。ただし、3学期は生物に関する題材を扱った小論文にて評価する。

### ○学習計画

月		月	
4	「生命現象と物質」 ・ 生体物質と細胞	10	・ 動物の発生 ・ 動物の発生のしくみ
5	・ 生命現象を支えるタンパク質 ・ 代謝とエネルギー	11	・ 発生をつかさどる遺伝子 ・ 植物の発生
6	「遺伝子のはたらき」 ・ 遺伝情報の発現	12	「生物の環境応答」 ・ 動物の刺激の受容と反応
7	・ 遺伝子の発現調節 ・ バイオテクノロジー	1	・ 動物の行動 ・ 植物の環境応答
8	「生殖と発生」		
9	・ 生物の生殖と配偶子の形成		
備考			

### ○評価

1. 意欲や態度・・・課題へ取り組み
2. 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストの点数
3. 思考力判断力・・・語彙確認テストの構成

科目名	コース	学年	単位数
体育	S	3	3

### ○内容・授業の進め方

生徒同士が協力し、個人やチームの課題を解決出来るようにする。また、スポーツの特性を理解し、ルールを学んだうえで練習し、試合まで行う。

### ○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・整列</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボール</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟、補強運動</li> <li>・スポーツテスト</li> <li>・柔道 受け身 固め技</li> <li>・陸上競技</li> <li>短距離走</li> <li>砲丸投げ</li> </ul>	9	基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>走り幅跳び</li> <li>走り高跳び</li> </ul> (基礎練習、記録測定)	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋外）</li> <li>サッカー、ソフトテニス</li> <li>ソフトボール、グラウンドゴルフ</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋外）</li> <li>サッカー、ソフトテニス</li> <li>ソフトボール、グラウンドゴルフ</li> <li>サッカー（男子） ・ソフトテニス(女子)</li> <li>パスの基本                      ラリー</li> <li>トラップの基本                  サーブ</li> <li>シュートの基本                  ボレー</li> <li>↓</li> </ul>	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール</li> <li>基礎練習（パス、ドリブル、シュート）</li> <li>ゲーム</li> <li>・選択種目（屋内）</li> </ul>
		12	フットサル      バスケットボール
		1	バドミントン      卓球
備考 体調不良等で見学する場合であっても、運動着に確実に着替えて授業に参加すること。			

### ○評価

1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。
2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。
3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。
4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。
5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。

科目名	コース	学 年	単位数
コミュニケーション 英語Ⅱ	S	3	3

○内容・授業の進め方

コミュニケーションの基本となる聞く力や読解力を向上させ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。また、さまざまな話題の英文に触れることで興味関心を広げ、自分の関心の高い分野についての情報や意見を発信する力を身につけさせたい。

○ 学習計画

月		月	
4	ヒビスピ it is 構文	9	ヒビスピ 知覚 / 使役動詞 分詞
5	ヒビスピ it is 構文	10-1	センター試験対策
6	ヒビスピ 比較	2	英作文演習
7	ヒビスピ 仮定法		
備考 ヒビスピ（株式会社アルク）などを使用			

○ 評価

- ・授業中の取り組み（積極性、提出物）
- ・小テスト、課題テスト
- ・定期テスト

科目名	コース	学年	単位数
家庭総合	S	3	2

○内容・授業の進め方

- ・人の一生の日常生活に関わる知識と技術を総合的に学習し、実際の生活にいかせる能力と実践的な態度を身につけます。
- ・実験や実習の機会を多く設定することで、基礎的・基本的な技術の習得を目指します。
- ・新聞やインターネット等の時事情報を活用しながら、現代の家庭生活を取り巻く問題について考えていきます。

○学習計画

月		月	
4	<b>【食生活をつくる】</b> ・食品の選び方と安全 ・食事摂取基準と食品摂取量のめやす	8	・住まいの管理
		9	・よりよい住生活を創造する
5	・食事計画 ・基本の調理 ・食事の作法 ・これからの食生活を考える	10	<b>【子どもとかかわって生きる】</b> ・みんなで育てる ・生命の誕生 ・心身の豊かな発達 ・子どもの生活を知る
6	・食料自給率と食環境  <b>【住生活をつくる】</b> ・人と住居のかかわり ・住まいの文化	11	・子どものおやつ作り ・出産と子育てのための環境づくりと社会的支援
7	・住空間の成り立ち ・健康に配慮した室内空間 ・安全に配慮した生活空間	12	<b>【消費者として自立する】</b> ・消費者の権利と責任 ・私たちの生活と資源環境
		1	<b>【経済的に自立する】</b> ・家庭経済と家計 ・計画的にお金を使う
備考			

○評価



- ・定期テストを実施する。
- ・学習への参加状況や態度、基礎技術の取得の様子は授業を通して評価する。
- ・ノート、プリントを定期的に提出させ、点検する。
- ・作品等がある場合は、提出を厳守させる。

科目名	コース	学年	単位数
プレゼンテーション	S	3	1

○内容・授業の進め方

- ・Microsoft Office Specialist (PowerPoint)試験の合格を目指す。
- ・各種ソフトウェアを効果的に組み合わせて使用する技術を身につける。

○ 学習計画

月		月	
4	MOS 検定 (ワード) 本番	8	<div style="text-align: center;">  <p>プレゼンテーション実践問題演習</p>  </div>
	PowerPoint 演習	9	
5	◎基本事項など	10	
	◎スライドの操作など		
	◎オブジェクトの挿入など	11	
6	◎問題演習	12	
	◎総合演習	1	
7	MOS 検定 (パワーポイント) 本番		
備考 限られた時間の中で資料を作成する力を身につける。			

○ 評価

- ・定期試験 (50%) + 実技試験 (30%) + 授業態度・提出物 (20%) とする
- 定期試験 (50%) → 得点より評価
  - ・・・思考・判断 (10%) + 知識・理解 (40%)
- 実技試験 (30%) → 制作物の完成度・創意工夫より評価
  - ・・・関心・意欲・態度 (10%) + 技能・表現 (10%) + 思考・判断 (10%)
- 授業態度・提出物 (20%) → 発言・提出物・出欠状況・その他より評価
  - ・・・関心・意欲・態度 (10%) + 技能・表現 (10%)

# ○普通科 T コース

## 1. コース目標

「自分をみつけ、自分を育てよう」

## 2. 学習目標

- (1) 社会で大切な物事を知る
- (2) 基礎学力をしっかり身につける
- (3) 様々な体験活動を通し自分を見つける
- (4) 資格取得に挑戦し、将来に生かす

## 3. 3年間の授業の流れ

### 【第1学年】

クリエイティブタイム 3単位

- 1) 体験活動を通し、視野を広げ自己を見つめる。
- 2) 地域の方々との関わり合いの中から好ましい人間関係を学び、感謝する心や感動する心など豊かな人間性を身につける。
- 3) 高校生としてのマナーを学ぶ。
- 4) 社会で大切な物事を知る。

聞く・挨拶・返事、多くの大人と具体的活動の中で公的にふれ合う。

### 【第2学年】

クリエイティブタイム 3単位

- 1) 体験活動を通し、視野を広げ自己を見つめる。
- 2) 地域の方々との関わり合いの中から好ましい人間関係を学び、感謝する心や感動する心など豊かな人間性を身につける。
- 3) 秘書検定に向けた学習を通して、社会で必要なマナーや知識を身につける。
- 4) 社会に自らアプローチする力をつける。

目上の方の指示を受け、内容を共に取り組む者にしっかり伝えて教えたり発表する。

### 【第3学年】

クリエイティブタイム 3単位

- 1) 体験活動を通し、視野を広げ自己を見つめる。
- 2) 地域の方々との関わり合いの中から好ましい人間関係を学び、感謝する心や感動する心など豊かな人間性を身につける。
- 3) 進路に関するマナーを実践。
- 4) 社会に自らアプローチする。

学んだ事を実践し、積極的に伝え・教え・発表できる。

## 4. その他

ウオーキングチャレンジ（ポップウオーク） 1年次

研修旅行 2年次

科目名	コース	学年	単位数
国語表現	T	3	3

○ 内容・授業の進め方

- ・ 感じたことや考えたことを的確にまとめ、自らの言葉で表現する力を高めます。
- ・ 理解し表現する基本的能力を高め、言語生活の向上を図ります。
- ・ 伝達能力を高め、鑑賞能力を養い、社会人としての資質を高めます。
- ・ 感想の共有や批評を通じて、日本文化遺産に対する理解を深めます。

○ 学習計画

月		月	
4	◎オリエンテーション ○討論する1	9	○スピーチ
5	○読書感想文	10	○意見文を書く
6	○広告の表現に学ぶ	11	○小論文を書く
7	○敬語の使い方	12	○取材する ○年賀状 ○かるた
8	○絵手紙	1	○かるた
備考			

○ 評価

- ・ 定期試験
- ・ 日常の取り組み
- ・ 漢字小テスト



科目名	コース	学年	単位数
現代文 B	T	3	2

○内容・授業の進め方

- ・理解と表現を通じ、感じたことや考えたことを的確にまとめ、自らの言葉で表現する力を高めます。
- ・近代以降の文章を読む能力を深めます。
- ・伝達能力を高め鑑賞能力を養い、社会人としての資質を高めます。
- ・文学作品を通じて、日本文化遺産に対する理解を深めます。

○学習計画

月		月	
4	○小説（名文を朗読し鑑賞する） ・情景や心理描写を的確に読み取る。 ・小説の登場人物に自分を重ねながら、読む楽しみを味わう	8	○評論（広い視野から自分の考えをまとめる）
5	○評論（正確な読みを身につける） ・論旨を正確に追いながら筆者の考えを読み取る。	9	・論理展開と論旨を押さえる。
6	○短歌俳句（名作を朗読し鑑賞する） ・代表作を味わい、情景や心理を読み取る。 ・作者についての理解を深める。	10	・批評精神を学び育てる。 ・歴史的な分析力を高め現代にいかす。
7	○評論（分かりやすい文章構成を理解） ・論理展開と論旨を押さえる。	11	・近代への理解を深め、現代に生きる知恵を育てる。
		12	○小説（名文を朗読し鑑賞して、自分の考えを表現する） ・主題をとらえ人間の心理について考えを深める。
		1	・虚構の仕組みを考え効果的な表現を味わう。 ・日本文化についての理解を深める。
備考			

○評価

- ・定期試験
- ・日常の取り組み
- ・漢字や題材に対する小テスト・提出物

科目名	コース	学年	単位数
世界史 A	T	3	2

○内容・授業の進め方

- ・現代社会の仕組みを理解する上で必要な歴史的背景や文化についての知識を身につける。
- ・世界的な視野で地球人としての認識を養う。
- ・重要な歴史的イベントや出来事を具体的に理解し、基礎知識の定着を図り、大学入試に向けた実践的な指導を行う。

○学習計画

月		月	
4	ユーラシアの諸文明 アジア、ヨーロッパの文化・文明	11	現代世界のあゆみ 帝国主義、第一次世界大戦、太平洋戦争
5	○基礎的な用語や歴史的背景や文化について知識を身に着けている	12	○基礎的な用語や歴史的背景や文化について知識を身に着けている
6			
7	一体化に向かう世界と日本	1	第二次世界大戦後の世界
8	ルネサンス、大航海時代、ヨーロッパの展開 ○歴史的な背景について理解している	2	国際連合、冷戦 ○歴史的な背景を踏まえつつ、今日の世界の国の繋がり方について理解する
	ヨーロッパ・アメリカの諸改革と世界の変動		
9	革命、世界の変動		
10	○世界の繋がりを意識して、各国どのように変わっていったのかを理解することができる	3	
備考 ・教科書、プリントファイルを準備して授業に臨むこと。 ・長期休み課題としてレポートを課す。 ・授業の内容の復習として課題を課す。			

○評価

- ・授業態度、提出物、定期テスト、課題で評価
- ・定期テストの結果・小テストの結果

科目名	コース	学年	単位数
地理 A	T	3	2

○ 内容・授業の進め方

- ・ 作業的・体験的な学習を通して地理的技能を身につける
- ・ 異文化の理解と地域的課題をとらえ追求することにより、世界各国との認識を深める学習を行う

○ 学習計画

月		月	
4	○地図を学習する上での基本的な事項 ・ 地図帳の概要、方位、緯度、経度、縮尺、時差の求め方を理解する ○人間生活を取り巻く環境	9	○近隣諸国の生活・文化と日本 ・ 韓国の生活・文化を知る ・ ロシアの生活、文化を理解する
5	・ 人々の生活と地形・気候等を知る ○世界の諸地域	10	○地球的課題と私たち ・ 地球的課題と私たち ・ 世界の人口問題を考える
6	・ 中国の生活・文化を学ぶ ・ 東南アジアの生活・文化を学ぶ ・ インドの生活・文化を学ぶ ・ ヨーロッパの生活・文化を学ぶ	11	・ 世界の食料問題を考える ・ 世界の都市・住居問題を理解する ・ 世界の資源・エネルギー問題を考える
7	・ アメリカ合衆国の生活・文化を学ぶ	12	・ 世界の環境問題を考える ・ 地球的課題のための何が必要かを理解する
8	・ オーストラリアの生活・文化を学ぶ	1	○近隣諸国が取り組む課題と日本の役割 ・ 近隣諸国の森林破壊への取り組みを考える ・ 近隣諸国の大気汚染への取り組みを考える
備考 毎時間プリントにまとめて提出します			

○ 評価

- ・ 定期試験
- ・ 授業中の学習態度や提出物（プリント）が出来ているか
- ・ 授業に対する意欲

科目名	コース	学年	単位数
クリエイティブタイム	T	3	3

○ 内容・授業の進め方

目 標

- (1) 体験活動を通し、視野を広げ、自己を見つめる。
- (2) 地域の方々との関わり合いの中から好ましい人間関係を学び、感謝する心や感動する心など豊かな人間性を身につける。
- (3) 資格取得に挑戦し、過程を大切にしながら、進路を選択する一助とする。

1 体験活動（5月～12月にかけて）

- ①工芸制作体験      ②自然の恵体験      ③ 子ども文化体験      ④郷土文化体験  
 発表会 12月9日（土）      他、準備やまとめの時間

2 マナー学習とライセンスチャレンジ

- ・ 1年次 マナー学習・高校生のマナー
- ・ 2年次 秘書検定に向けた学習
- ・ 3年次 秘書検定（6月受検）

○学習計画

月		月	
4	マナー学習	10	体験活動
5	体験活動	11	体験活動
6	体験活動 秘書技能検定	12	体験活動
7	体験活動	1	体験活動のまとめ
8	体験活動		
9	体験活動		
備考			

科目名	コース	学年	単位数
数学A	T	3	4

○内容・授業の進め方

- ・第1章では、いろいろな場合の数をかぞえるとき、もれなく・重複することなく・効率的に数えることを学習し、集合の基本的な考え方を学びます。
- ・第2章では、第1章で学習したことを使い、確率の基本的な考え方や、計算方法を学びます。
- ・第3章では、三角形・円の様々な性質について学びます。

身近な話題を多く取り入れ、より数学に関心が持てるような内容です。

「数学が苦手・嫌い」と感じている人も、じっくりと学び、“数学に近づく”という気持ちを持って楽しみながら学習していきましょう。

○学習計画

月		月	
4	第1章 順列と組合せ 1節 順列 ・順列	10	第3章 平面図形 1節 三角形の性質 ・三角形の辺と角 ・三角形と線分の比 ・三角形の重心・外心・内心
5	2節 組合せ ・組合せ		
6	第2章 確率 1節 確率とその基本性質 ・事象と確率	11	2節 円の性質 ・円周角 ・2つの円 ・円と四角形 ・円と比例
7	・確率の計算 ・独立な試行と確率 ・期待値	12	レポート作成
8	《就職試験対策演習》	1	
9			
備考 定期テストの他に小テストを実施する			

○評価

- ・学習に積極的に参加しているか（授業態度・ノート・発表）
- ・定期テスト（年4回） ・小テスト

科目名	コース	学年	単位数
地学基礎	T	3	3

○内容・授業の進め方

1. 日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。
2. 地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。
3. 地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。

○ 学習計画

月		月	
4	1編 私たちの宇宙の進化 1章 宇宙の構造と進化	10	2章 地震
5	2章 太陽と惑星	11	3章 火山
6	2編 私たちの地球の変遷と生物の進化 1章 生命の変遷	12	4章 大気と海洋
7	2章 地層や岩石の観察	1	4編 私たちの地球のこれから 1章 地球環境の考え方
8	3編 私たちの地球		2章 自然環境の変動
9	1章 大地とその動き		3章 日本の自然環境
			4章 これからの地球環境
備考			

○評価

1. 定期試験の点数を重視する。
2. チームとして課題取り組む態度
3. 授業中の積極的な態度・発言

科目名	コース	学年	単位数
体育	T	3	3

### ○内容・授業の進め方

生徒同士が協力し、個人やチームの課題を解決出来るようにする。また、スポーツの特性を理解し、ルールを学んだうえで練習し、試合まで行う。

### ○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・整列</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボール</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟、補強運動</li> <li>・スポーツテスト</li> <li>・柔道 受け身 固め技</li> <li>・陸上競技</li> <li>短距離走</li> <li>砲丸投げ</li> </ul>	9	基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>走り幅跳び</li> <li>走り高跳び</li> <li>(基礎練習、記録測定)</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋外）</li> <li>サッカー、ソフトテニス</li> <li>ソフトボール、グラウンドゴルフ</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択種目（屋外）</li> <li>サッカー、ソフトテニス</li> <li>ソフトボール、グラウンドゴルフ</li> <li>サッカー（男子） ・ソフトテニス(女子)</li> <li>パスの基本                      ラリー</li> <li>トラップの基本                      サーブ</li> <li>シュートの基本                      ボレー</li> <li>↓</li> </ul>	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール</li> <li>基礎練習（パス、ドリブル、シュート）</li> <li>ゲーム</li> <li>・選択種目（屋内）</li> </ul>
		12	フットサル      バスケットボール
		1	バドミントン      卓球
備考			
体調不良等で見学する場合であっても、運動着に確実に着替えて授業に参加すること。			

### ○評価

1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。
2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。
3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。
4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。
5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。

科目名	コース	学年	単位数
コミュニケーション 英語Ⅱ	T	3	2

○内容・授業の進め方

- ・文法の基礎を習得し、積極的に英語でコミュニケーションを図るための表現力を育成する。
- ・英検 3 級合格レベルを目標とする。

○学習計画

月		月	
4	・ Lesson1,2 現在形、過去形	9	・ Lesson13,14 分詞、関係代名詞
5	・ Lesson3,4 進行形、未来表現	10	・ Lesson15,16 関係副詞、比較級
6	・ Lesson5,6 現在完了形	11	・ Lesson17,18 知覚動詞、使役動詞、仮定法過去
7	・ Lesson7,8 助動詞	12	・ 一年間のまとめ
8	・ Lesson9,10 不定詞	1	
	・ Lesson11,12 動名詞、受動態		
教科書 SELECT English Expression I 使用			

○評価

- ①授業に意欲的に参加しているか（学習に臨む姿勢、ノート・プリントの取り組み）
- ②単語テスト、定期テストの結果
- ③期限を守って提出物が出ているか。



科 目 名	コース	学 年	単位数
英語表現 I	T	3	2

○内容・授業の進め方

- ・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ・情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。
- ・英検 3 級合格レベルを目標とする。

○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 1 Staying in Space S+V+that 節, S+V+O+that 節</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 6 Why is it That Shape? 関係代名詞 what</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 2 Doraemon in the U.S.s want to 不定詞</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 7 Fuji,a Dolphin With a New Fin 過去完了形</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 3 Fatm in the Sky 疑問詞+to 不定詞</li> </ul>	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 8 Do We Need That? 使役動詞</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 4 Gaul Setting 分詞構文</li> <li>・ Lesson 5 The High School Student Restaurant 形式主語 it</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson9 Changing Feelings 関係代名詞継続用法</li> </ul>
		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年間の総まとめ</li> </ul>
教科書 COMET English Communication II 使用			

○ 評価

- ① 授業に意欲的に参加しているか (学習に臨む姿勢、ノート・プリントの取り組み)
- ② 単語テスト、定期テスト、課題テストの結果
- ③ 期限を守って提出物が出ているか

科目名	コース	学年	単位数
家庭総合	T	3	2

○内容・授業の進め方

- ・人の一生の日常生活に関わる知識と技術を総合的に学習し、実際の生活にいかせる能力と実践的な態度を身につけます。
- ・実験や実習の機会を多く設定することで、基礎的・基本的な技術の習得を目指します。
- ・新聞やインターネット等の時事情報を活用しながら、現代の家庭生活を取り巻く問題について考えていきます。

○ 学習計画

月		月	
4	<b>【食生活をつくる】</b> ・食品の選び方と安全 ・食事摂取基準と食品摂取量のめやす ・食事計画	8	・住まいの管理
5	・基本の調理 ・食事の作法 ・これからの食生活を考える ・食料自給率と食環境	9	・よりよい住生活を創造する
6	<b>【住生活をつくる】</b> ・人と住居のかかわり ・住まいの文化	10	<b>【子どもとかかわって生きる】</b> ・みんなで育てる ・生命の誕生 ・心身の豊かな発達 ・子どもの生活を知る ・子どものおやつ作り
7	・住空間の成り立ち ・健康に配慮した室内空間 ・安全に配慮した生活空間	11	・出産と子育てのための環境づくりと社会的支援
		12	<b>【消費者として自立する】</b> ・消費者の権利と責任 ・私たちの生活と資源環境
		1	<b>【経済的に自立する】</b> ・家庭経済と家計 ・計画的にお金を使う
備考			

○ 評価

- ・定期テストを実施する。
- ・学習への参加状況や態度、基礎技術の取得の様子は授業を通して評価する。
- ・ノート、プリントを定期的に提出させ、点検する。
- ・作品等がある場合は、提出を厳守させる。